

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所
カンキツ研究口之津拠点の存続を求める意見書

熊本県の果樹は、温州みかん及び不知火（デコポン）等中晩柑を主体に産出額が300億円に及ぶ極めて重要な作目である。特に、かんきつの産地は、農業者の努力と試験研究機関を中心とした品種の育成、管理技術の開発等の支援・指導を受け、傾斜地という条件不利を乗り越え、発展してきたところである。

このたび、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構が平成20年12月に決定した「小規模な研究拠点の研究組織の見直しに係る基本計画」で、平成27年度をめどに口之津拠点（長崎県）が、興津拠点（静岡県）に移転・統合されるという情報を入手した。

当該基本計画の策定に当たっては、本県に何の説明もなく、また、意見を述べる機会も与えられなかった。

「口之津拠点」は、「不知火」の育成等、本県をはじめとする九州における温州みかん及び中晩柑に関する技術開発の中核施設として、九州のかんきつ振興に大きな役割を果たしている。

今後も、現在切実な問題となっている地球温暖化等に対応する技術の開発、新品種の育成及び果樹後継者の研修等の機能は、本県だけでなく、九州におけるかんきつ産地の発展にとって不可欠である。

よって、国におかれては「口之津拠点」を、現在のまま、九州におけるかんきつの技術開発の中核施設として存続されるよう、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構を指導されることを強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年3月24日

熊本県議会議長 早川英明

衆議院議長	横路孝弘様
参議院議長	江田五月様
内閣総理大臣	鳩山由紀夫様
総務大臣	原口一博様
農林水産大臣	赤松広隆様